

# 自傳

2025 年 12 月 31 日

野中健司



2025年12月6日13時20分 ほぼ準備が済んだ会場風景

「提灯竿もみ祭」は「お帰り」とも言い、隣町の野木神社の神様が12月3日に七郷めぐりから、夜に神様が帰ってくるのを、横町でお迎えした際に、寒さから体を温めるために、提灯竿を揉み合いして迎えたのが。そのルーツと言われている。奇祭として知られ、まだTVがない時代の昭和30年代であろうか？NHKラジオの実況放送を聴いていたのを記憶している。





祭りの喧騒、祭り会場周囲の道路や駅弘には屋台が並び、和太鼓集団などが祭りを盛り上げていた

2025年12月6日19時ごろの沿道、奥に見える提灯の灯りが祭り会場である。



2018年12月1日であるが、アブリ古河の駐車場の最上階から祭り会場を撮る。



2025年12月6日12時6分

公方様の森の下草刈り(ボランティア作業)



2025年12月6日12時10分 雜木林は、葉も大分落ちて、空が良く見える。



2025年12月6日12時30分 管理棟の南側、ドウザンツツジの黄葉が庭園美を見せていた。



2025年12月11日14時24分 公方様の森冬の陽に輝き、御所沼の柳は影絵の佇まいを見せていた。



2025年12月11日14時30分

イイギリの赤い実がびっしりとつき、モミジの紅葉にも見える。樹形は違うが。



2025年12月11日14時45分 新久田道は既に冬景色



2025年12月11日14時50分 鴨は70羽くらい見える。



2025年12月14日 14時ごろ ビオトープの手入れする市民



12月28日14時ごろ 蓮池を見晴らす藤棚で穏やかな日和の語らい。



12月28日14時ごろ 中山台 12月としては、おだやかな日和にゆったりと遊ぶ親子



12月28日14時過ぎ 城山下の掘り割りでは、午後でも溶けずにまだ薄氷が張っていた。



2025年12月31日 16時30分 雀神社の堤防から、夕日に浮かぶ影富士

土手には、日没に合わせるように、多くの人が土手にあがってきた。

遊水地越しの夕日はそのスケール感からしても見事としか言いようのないものである。